

家庭科における「キャリアプランニング」の効果的な指導について

〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇 （家庭科）

1 はじめに

近年、フリーターやニート、「七五三現象」に例えられる早期離職問題など、若者の不安定な就業に関する問題が広く認識されるようになった。脆弱な生活基盤から抜け出せず、人生のキャリアプランを考えられない若者の増大は、本人の損失ばかりでなく、将来大きな損害が社会にもたらされる恐れがあると指摘されている。産業や経済の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化に加え、世界同時不況など将来への不透明さは増す一方である。

このような社会状況の中、2006年の教育基本法改正では、教育目標に「個人の価値を尊重して」「職業及び生活との関連を重視し、勤労観を重んじる態度を養うこと」と記され、社会人・職業人として自立する上で必要な力や勤労観・職業観を育む「キャリア教育」が、教育の目標に明確に位置づけられた。学校教育において、社会の激しい変化にも対応しうる「生きる力」を身につけさせることが強く求められている。教科「家庭」においては、平成21年3月に告示された次期学習指導要領の内容にも反映されている。「キャリア教育」に関連深い内容に注目してみると、現行では「家庭総合」にのみ内容として「生活設計」が取り上げられたのに対し、次期では「生涯の生活設計」として、「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」の全てで取り扱う内容とされている。「家庭総合」の「生涯の生活設計」に関する記述からは、生涯を見通す視点や他の学習内容との関連づけが、これまで以上に重要であることが伝わってくる。

さて、本校は平成16・17・18年度にキャリア教育推進指定校として、小・中・高で連携したキャリア教育に取り組んだ経緯がある。その中で、第1学年から第3学年におよぶキャリア教育プログラムの土台が作成された。現在も、勤労観・職業観の育成を目指す取り組みは続いており、キャリア教育は、本校の教育目標の柱ともいえる。家庭科目については、現在、普通科・ビジネスコースおよび生産流通科では「家庭総合」4単位を第2学年から第3学年において、普通科・進学コースでは「家庭基礎」2単位を第3学年で履修する。このような本校の実態をふまえ、「総合的な学習の時間」「LHR」および他教科との連携を図りながら、発想力や意思決定能力の育成を重視した家庭科における「キャリアプランニング」の展開を試みたい。

2 研究計画

(1) 本校生徒の状況

(2) 本校生徒の意識調査

ア 調査内容と結果

イ 考察

(3) 本校の「キャリア教育」の現状

(4) 「キャリアプランニング」の指導実践

ア 指導計画・内容

イ 授業実践1 金銭基礎教育プログラム「マネーコネクション」

ウ 授業実践2 ライフプラン 未来の設計図 ～「マインドマップ」でかいてみよう～

(5) 考察と今後の課題

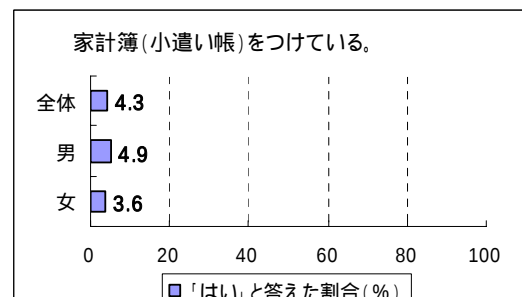
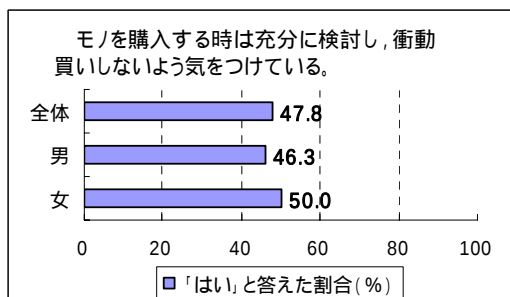
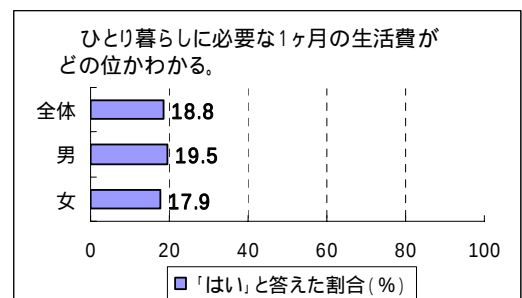
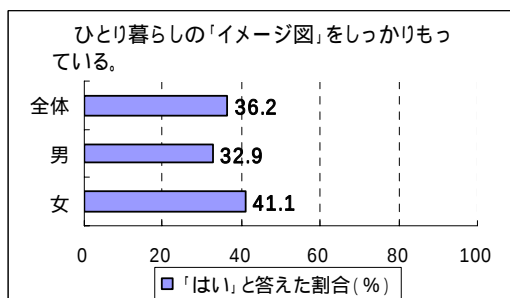
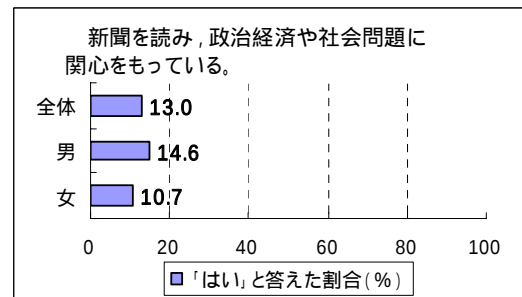
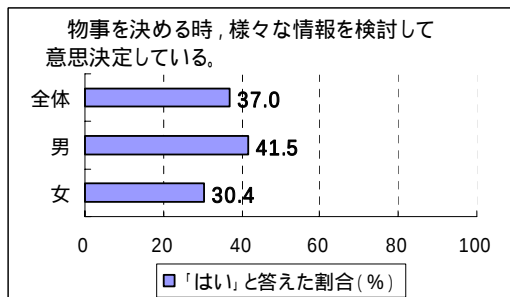
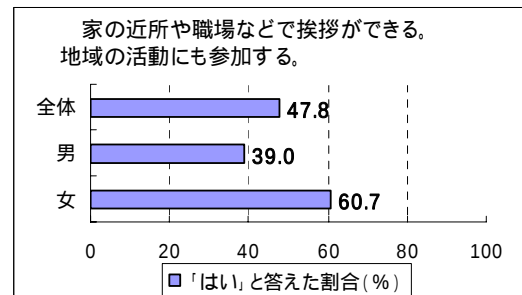
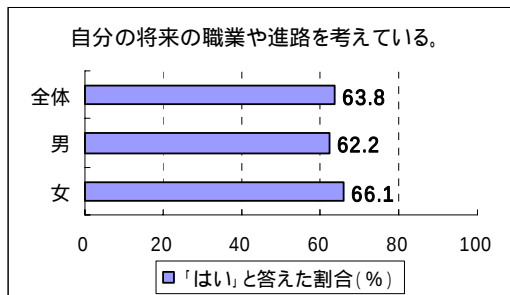
3 研究内容

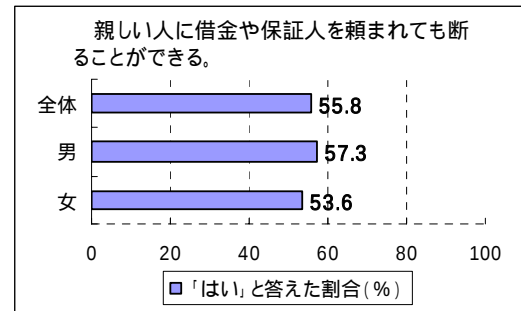
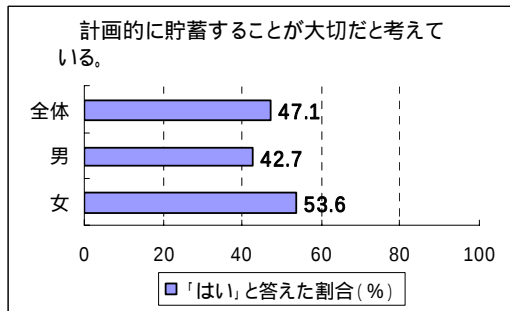
(1) 本校生徒の状況

本校は明治40年に〇〇〇〇学校として創立され、19年度に創立100周年を迎えた伝統校である。現在は農業系の生産流通科と普通科を併設し、各学年4学級の小規模校である。交通の便はよくないが、生徒は地元〇〇町の他に、広い地域から通学している。先に述べたキャリア教育推進指定校としての取り組みでは、町の協力を得て「〇〇の子 町の子 みんなの子」をキャッチフレーズに、地域の小中学校と連携を図りながら事業を進めてきた。創立以来、地域に根ざし、地域に育まれ、“地域とともに歩む”学校である。平成19～20年度における卒業時の進路は、卒業生300人中、就職162名(54%)、専門学校進学87名(29%)、大学・短大進学39名(13%)、未定12名(4%)であり、数年前と比較すると未定者の数・割合は減少している。

(2) 本校生徒の意識調査

ア 調査内容と結果(平成20年度2学年生徒対象 男子82名,女子56名,合計138名で実施)
 〇冊子「これであなたもひとり立ち」- マネー情報知るぽと・金融広報中央委員会作成 - より、「ひとり暮らしの自立度チェック」を活用して調査を行った。





イ 考察

キャリア教育のめざす4つの能力、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」に照らして、生徒の実態をとらえた。

【将来設計に関する項目について】項目 他

高校2年の2学期で「自分の将来の職業や進路を考えている」生徒は、まだ6割であった。男女でそれほど大きな差はない。「ひとり暮らしのイメージ図をしっかりと持っている」と答えたのは、女子の割合が高い。

【情報活用および意思決定に関する項目について】項目 他

「物事を決める時、様々な情報を検討して意思決定している」とした生徒は全体で4割に及ばず、女子は低く3割であった。また、女子は「新聞を読み、政治経済や社会問題に関心を持っている」割合も低い。一方「モノを購入する場合は、十分に研究し、衝動買いしないよう気をつけている」ではやや高く、先のひとり暮らしのイメージや「計画的に貯蓄することが大切だと考えている」割合も高い。経済面では、女子のしっかりした一面をうかがわせる傾向が見られる。

【人間関係形成に関する項目について】 他

「家の近所や職場などで挨拶ができる 地域の活動にも参加する」のは全体で5割弱。男子が4割に対して女子が6割、他の項目に比べて男女差が大きい。

全体を通してみると、生徒が「自立と共生」を意識してキャリアプランニングに至るプロセスが重要であり、金銭教育は重要な柱の一つと考える。

(3) 本校の「キャリア教育」の現状

現在、具体的な企画・運営は各学年にゆだねられている状況である。教職員の共通理解を図りながら、互いに連携し、各教科での実践が望まれる。

【家庭科（キャリア教育に関連する分野）と関連する指導内容】

< 総合的な学習の時間 >

- | | | |
|-------|---------------------------------|------------|
| 1～3学年 | 「悪質商法を知る」千葉県消費者センター消費生活指導員による講話 | 内容を考慮し毎年実施 |
| 1学年 | フリーター・ニートに関する講演（外部講師） | |
| 3学年 | 年金に関する講話（外部講師） | |

< 各教科・科目 >

- | | |
|------|--|
| 現代社会 | 1学年1学期（家族に関する内容は社会を映す問題、基本的人権との関わりで指導する。） |
| | 1学年2学期（家庭経済、消費生活、環境などについては新聞等を活用し、時事問題として扱う。） |
| 商業科目 | 3学年普通科ビジネスコース・1学期（消費の二極化、支出内容の変化、福祉対応型商品の開発など） |
| 保健 | 2学年1学期（思春期の健康・家族計画・加齢に伴う心身の変化など生涯を通じた健康を扱う。） |

(4)「キャリアプランニング」の指導実践

ア 指導計画・内容(2～3学年で履修する家庭総合4単位の場合)

全ての分野に関連すると考えるが、ここでは狭義の意味で抽出した。指導は分散して行う。

学習項目	配時	○学習内容 学習のねらい・【キャリア教育がめざす能力：主なもの】
青年期の発達課題 「自立の条件」	1	○「ひとり暮らしの自立度チェック」～マネー情報知るぼと・金融広報中央委員会製作「これであなたもひとり立ち」より～ 青年期の「自立」について具体的観点から理解する。 【将来設計・意思決定】
暮らしと家族	3	○社会の変化と家族 ○社会を映す家族問題(家族関係、介護、育児不安、DVなど) ○家族を支える仕組み(家族に関する法律と制度) 家族の意義を理解する。自己を見つめ直し、自分の描く家族観と向き合いながら、よりよい関係について考える。 【人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定】
暮らしに必要なお金	2	●実践1：金銭基礎教育プログラム「マネーコネクション」 シミュレーションゲームやワークを通して仮想体験しながら、働くことや家族とのかわり、生活に必要なお金について考える。 【人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定】
現代の消費生活の特徴	2	○さまざまな消費者問題 契約の意味を理解し、トラブルの種類と対策について理解する。 【意思決定】
循環型社会と消費	2	○循環型社会をめざして(各種リサイクル法、3つのRなど) ○私はグリーンコンシューマー「もったいないカード」の作成と発表 環境に配慮したアクションプランを考えて発表し、実践の第一歩とする。 【情報活用・意思決定】
意思決定と生活情報	1	○20秒ラジオCMづくり 意思決定のプロセスを知る。消費者が得る情報の影響力を理解する。【情報活用】
WLB(ワーク・ライフ・バランス)	1	○ワーク・ライフ・バランスを語ろう 資料をもとにしたグループディスカッションにより多様な価値観を知る。 【人間関係形成・将来設計】
ライフプラン	2	●実践2：ライフプラン 未来の設計図～「マインドマップ」でかく～ 家族や生きがい、経済基盤など様々な観点から理想の未来像をイメージし、生涯を見通した目標設定の重要性を理解する。 【将来設計・意思決定】

イ 授業実践1 金銭基礎教育プログラム「マネーコネクション」

【「マネーコネクション」について】

「マネーコネクション」は、NPO法人「育て上げ」ネットが、企業や有識者とともに開発した教育プログラムである。NPO法人「育て上げ」ネットは、若年者就業基礎訓練プログラム(ジョブトレ)を中心に若者支援、保護者のサポートを行っており、就労や社会参加のサポートなどを通じて若年者の自立を支援している。このプログラムでは一人暮らしに必要な生活費を計算したり、年齢、職業、雇用形態、月収などを設定したカードを使いながら仮想体験し、グループディスカッションを交えて楽しみながらお金の本質を考える内容になっている。平成20年度は講師派遣を依頼し、5名の講師が来校。2学年生徒を2会場に分け、無償で実施していただいた。21年度はこれを参考に授業実践を試みた。ワークシートなどの教材はホームページから無料でダウンロードし、使用できる。

【プログラムの概要および授業実践】

プログラム1 「稼ぐこと」「働くこと」から、将来の生活をシミュレーションしてみよう！

<学習目標>

一人暮らしにかかる費用の内訳・相場を理解する。

シミュレーションゲームやグループディスカッションを通して、様々な生活実態や価値観の存在を知り、将来の働き方や生き方について関心を高める。

<学習展開>

配 時	生徒の学習活動および教材等	学習活動の支援・指導上の留意点 【観点別評価】
導 入 5 分	・ 本時のテーマを知る。 スライド1：テーマ	・ シミュレーションゲームやグループディスカッションを通して「お金」と「生活」のあり方について考えることを知らせる。 ・ 後のグループ学習に対応した教室のレイアウトを工夫する。
展 開 40 分 (10 分)	・ ワーク1（生活コスト）一人暮らしにかかる費用を知る。 スライド2～3：手順・資料提示 ワークシート1 シート1の解答	・ 5分以内に記入するように促す（予想でよい・考えすぎない）。 ・ 解答のプリント（色紙）を配布し、一人暮らしに20万円程度必要なことを知らせる。金額は全国平均による目安であり、地域の特性があること、節約可能な費目とそうではない費目があることに気づかせる。 【思考・判断】
(15 分)	・ ワーク2（シミュレーションゲーム）職業・勤務形態・収入などを仮想体験して一日の労働時間や生活時間、自由時間を割り出す。最初に引いたカードの指示で席替え・グループを編成する。 スライド4～7：手順・資料提示 ワークシート2（裏面に解説） 稼ぎ方・働き方カード 月収カード	・ 代表生徒数名を活用し、生徒全員に稼ぎ方・働き方カードを引かせる。 ・ 働き方（正社員・派遣社員・フリーター）別に4～6名のグループ編成を指示し、対応したワークシートを配布する。あらかじめカードに机の番号を記入しておいたり、男女混合を指示するなど効果的・効率的な編成に配慮する。 ・ グループごとに月収カード（15万円、30万円、100万円の3種類）を準備しておく。派遣社員・フリーターで月収100万円の場合は、生活が成り立たないので月収を20万円に変更させる。 ・ ワークシートの裏面に正社員・派遣社員・フリーターの特徴を示す。説明は概略で済ませる。詳細な解説は避け、後で読むように促す。 【思考・判断】
(15 分)	・ ワーク3（グループディスカッション）仮想体験で感じたことを各自ワークシートに記入し、これをもとにグループで話し合う。 スライド8：手順 ワークシート3 暮らし方カード	・ 暮らし方カード（家族構成・居住地など）を引かせ、家族構成の違いなどによって必要な生活費や時間の使い方が変わること気づかせる。 ・ 収入や自由時間の満足度などをワークシートに記入させてからグループ内で発表させる。 ・ ディスカッションの場面では自分の考えを述べるだけでなく、うなずいたり、人の話に耳を傾けて上手に相手の考えを引き出すことが重要であることを伝える。 ・ 時間があれば、クラス全体に向けてシミュレーションによる気づきや感想などを発表させる。 【技能・表現】
まとめ 5 分	本時のまとめ 授業の感想を記入し、提出する。 スライド9：まとめと今後の課題 ワークシート3（裏面に感想欄）	・ 働くこと、生活することに関して様々な価値観があること、働き方によって生活も変わることを認識させ、将来の働き方や生き方について考えることを促す。教師の価値観の押しつけにならないように注意する。

プログラム2 「ニーズ」と「ウォンツ」を知って、お金のバランス感覚を身につけよう！

<学習目標>

「必要なもの」と「あった方がよいもの」を考え、現在の自分の価値観を把握するとともに相場を意識する。

「もの」に対する価値観は、立場や状況によって変化することを理解する。

<学習展開>

配 時	生徒の学習活動および教材等	学習活動の支援・指導上の留意点 【観点別評価】
導 入 5 分	・前時の復習 ・本時のテーマを知る。 スライド1：テーマ	・プログラム1で生徒が記入したワークシートの感想などを紹介する。 ・前時に続き、シミュレーションゲームとグループディスカッションを通してお金のバランス感覚を考えることを知らせる。
展 開 40 分 (10 分)	・ワーク1（個人ワーク）指定14品目を自分にとって「必要なもの」と「あった方がよいもの」に分け、予想金額を考える。 スライド2～3：シート等提示 ワークシート1 資料：目安の金額	・裏にグループ番号を記入したワークシートを配布し、指示されたグループごとに速やかに着席させる。 ・グループ内で前回のシミュレーション内容・感想などを発表させ、新しいグループの雰囲気づくりに役立てる。 【技能・表現】 ・ワークシート1の記入は3分以内に済ませるように促す（金額は予想でよい・考えすぎない）。 ・記入したワークシートをグループ内で見せ合い、価値観の相違を暗示した後、資料を示し参考価格を紹介する。 【思考・判断】
(15 分)	・ワーク2（グループワーク）提示された商品が「必要なもの」か「あった方がよいもの」か、グループで話し合い、自分の考えをまとめる。 スライド4：シート等提示 ワークシート2	・「パソコン」「自動車」「乾燥機」の中からグループごとに商品を指定し、ワークシートに各自の考えを記入させてから話し合わせる。 ・話し合いの中で出てきた価値観の相違は、否定せずに聞くよう促す。 ・話し合いを終えた後で自分の考えを確認させ、変わったことがあれば理由とともにワークシートに記入させる。 【技能・表現】【思考・判断】
(15 分)	・ワーク3（グループディスカッション）仮想体験で感じたことを各自ワークシートに記入し、これをもとにグループで話し合う。 スライド5：シート等提示 ワークシート2 シミュレーションカード	・シミュレーションカード（年齢・職業・家族構成・居住地の表示）を引かせ、条件の違いによって「必要なもの」「あった方がよいもの」が変わることに気づかせる。変わった場合、変わらなかった場合それぞれの理由をワークシートに記入させてから話し合わせる。 ・ディスカッションの場面では自分の考えを述べるだけでなく、うなずいたり、人の話に耳を傾けて上手に相手の考えを引き出すことが重要であることを伝える。 ・時間があれば、クラス全体に向けてシミュレーションによる気づきや感想などを発表させる。 【技能・表現】【思考・判断】
まとめ 5 分	本時のまとめ 授業の感想を記入し、提出する。 スライド6：まとめと今後の課題 ワークシート2（裏面）	・お金を賢く使うために「必要なもの」「あった方がよいもの」を考えて優先順位をつけること、相場を知り、購入・消費が社会にもたらす影響を考えた上で適正な判断を下すことが重要であることを伝える。

<授業実践上の注意点>

ワークとディスカッションの時間を確保するため、説明事項は最小限にし、教材を適宜効率よく配布する。配当時間の都合上、2つのプログラム実施が難しい場合は、プログラム1だけでも効果がある。

< プログラム 1 で使用するカード 3 種類の例 >

The image displays four cards related to income and lifestyle, each with a different background color and illustration.

- 稼働方・働き方カード (Working Method Card):** Red background. Text: 稼働方・働き方カード. Illustration: Three cartoon characters (two men and one woman) working at a desk.
- 月収カード (Monthly Income Card):** Blue background. Text: 月収カード. Illustration: Two cartoon characters (a woman and a man) holding up money.
- 暮らし方カード (Lifestyle Card):** Green background. Text: 暮らし方カード. Illustration: Two cartoon characters (a woman and a man) holding up money.
- Income Card:** White background with a blue border. Text: あなたの月収は 15万円 (Your monthly income is 150,000 yen). Illustration: A cartoon character of a man in a green cap and uniform, holding a clipboard.

＜プログラム1の授業風景（2年目公開授業）＞

マネー・コネクション
お金と生活について考えよう
ゲーム＆グループワーク



ワークシート（STEP3）の解答

職種・働き方	月収 (万円)	仕事以外時間 (1ヵ月)	(1日平均)	仕事の日・ 休みのない日
月給制・正社員 (1日8時間労働)	15～ 10.0万円	56.0時間	18時間	16時間/ 2.5時間
	15万円	60.0時間	20時間	15時間/ 2.4時間
日給制・派遣社員 (1日8時間労働)	3.0万円	48.0時間	16時間	(休みなし)働く
	10.0万円 ～2.0万円	56.0時間	18時間	16時間/ 2.4時間
	15万円	57.0時間	19時間	(1日に働く時間 は1.9時間)
	3.0万円	42.0時間	14時間	(1日に働く時間 は1.0時間)
時給制・フリー	10.0万円 ～2.0万円	52.0時間	17時間	(1日に働く時間 は7.7時間)

【正社員・派遣社員・フリーターの違い】

- * 定義（フリーターの定義は内閣府と厚生労働省で異なる）
- * 給与体系の傾向
 - フリーター・派遣社員は時給・日給換算が多い
 - 正社員は月給・年俸換算が多い
- * メリットとデメリット
 - 給与・保障と条件・希望（勤務地・時間・業務内容等）

家-2-7

【生徒の実態確認】プログラム実施前に事前調査を行った。 対象：平成20年度2学年生徒138名

これから1人暮らしをすると仮定します。1ヶ月の生活費はどのくらいかかると思いますか。

全体(138名)	男(82名)	女(56名)
135,181円	134,817円	135,714円

若干女子の平均金額が高い。

生涯賃金をどのくらい得たいですか。その金額の根拠として最もふさわしいものを選びなさい。

金 額	人数(名)	割合(%)
～1,000万円	23	16.7
～5,000万円	19	13.8
～1億円	48	34.8
～2億円	14	10.1
2億円超	18	13.0
記入なし	16	11.6
合計	138	100.0

根拠・理由 単位(%) (人 数)	全体 138名	男 82名	女 56名
平均だと思う	25.4	32.9	14.3
職業をイメージした	8.0	7.3	8.9
余裕ある生活を前提	49.3	43.9	57.1
その他	5.8	2.4	10.7
記入なし	11.6	13.4	8.9

全体(126名)	男(74名)	女(52名)
131,320	171,140	74,330

平均額は、男女でかなり差違がみられる。根拠・理由において男女とも「余裕のある生活」を選んでいるが、女子は「平均」とのポイント数に大きな開きがみられる。

< 回答平均額：単位：千円 >

【プログラム実施中に生徒の記入したワークシートの分析】 対象：平成20年度2学年生徒

プログラム1より ワークシート1(1カ月の給料を20万円と仮定して一人暮らしに必要な生活費を予想)

費 目	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	記入なし(名)	記入なし(%)
家 賃	52,295	80,000	15,000	1	0.8
水道・光熱費	10,545	80,000	1,000	1	0.8
食 費	21,699	50,000	4,000	0	0
衣 服 費	13,504	50,000	0	2	1.5
交際費・その他	17,410	150,000	0	5	3.8
通 信 費	12,345	30,000	3,000	1	0.8
交 通 費	8,831	100,000	0	9	6.8
国民健康保険	7,534	20,000	0	23	17.3
国 民 年 金	7,630	20,000	0	23	17.3
所 得 税	7,297	20,000	1,000	23	17.3
住 民 税	6,703	20,000	500	23	17.3
貯 金	25,690	90,000	0	25	18.8
合 計	179,590	*****	*****	*****	*****

費目ごとの金額は、現在の生活や得た知識からイメージできるか否かが鍵である。特に国民健康保険、国民年金、所得税、住民税の4費目については皆目見当がつかない生徒が多く、すべて同じ生徒達である。20万円のやりくりは難しいようで、生活のバランス感覚はまだ得られていない状況である。

プログラム1より ワークシート3(グループディスカッション発表シート)

キミの1カ月の収入と1日の遊べる時間(自由時間)を書いてみよう。～ワークシート2より～収入や遊べる時間(自由時間)を見てどう思った?理由や思ったことを書いてみよう。
キミの引いた「暮らし方カード」を記入しておこう。 項目：年齢、住居、結婚相手、子ども、収入、遊べる時間(自由時間) 暮らし方を見てどう思った?
「暮らし方カード」を引いてみて、感想は変わった?どうしてそう思ったか、理由や思ったことを書こう。

< 1クラスの集計結果 >

の満足度	全体 36名	男 20名	女 16名
大 満 足	0	0	0
まあまあ満足	8	2	6
ちょっと不満	14	7	7
これじゃ無理	13	10	3
無 回 答	1	1	0

働き方、月収、住居、家族などの条件が異なり一概にはいえないが、「無理」と答えた生徒は男子に多い。自由記入で男子は「養えない」「お金が足りないからもっと働く」女子は「結婚しているなら収入が少なくてもよい」「子どもにお金がかかるからやり繰りが大変」など内容に傾向が見られる。

【生徒の感想（抜粋）】

- ・ゲームを通して、楽しく学べてよかった。お金のことをこんなに考えたのは、初めてだった。
- ・いろいろな職業の立場になって考えられたからよかった。
- ・生活するにはお金がかかる。どのような手段でお金を稼ぐかは自分次第だ。自分が働きたいスタイルは、お先真っ暗。命を削ってでも働かないと生活ができない。
- ・普通に暮らすだけでも、ものすごくお金がかかることがわかった。一人暮らしの大変さがわかった。
- ・給料20万円で一人暮らしするのに、こんなにも大変だなんて驚いた。正社員で15万円だったら、生活するには“節約”が必要なんだ。“やりくり”の重さがわかった。
- ・生活費は自分の予想していた金額と違い、びっくりした。保険など関わったこともないから、知らないことが多かった。
- ・今まで、親が全部払っていることを忘れて、自由に使いすぎていたかなと反省した。
- ・大人になれば、それなりに貯金をしないとだめ。欲しい物があっても、たまには我慢して生活していかないと生活が苦しくなる。お金の使い方は本当に大切だと思った。
- ・これからの進路について、安易な考えはやめた方がよいと思った。“何となく”で進路を決めるのは危険。ダメだ。
- ・自立するには、お金が必要。働き方の違いによるメリットとデメリットを知っておく必要がある。
- ・きちんとした仕事につき、生活を安定させたい。
- ・自分の引いたカードに示された給料で、子どもがいたら結構きつい。今回はシミュレーションだが、これが現実だったらなんて考えたくもない。後々思い出しそうで怖い。
- ・結婚費用の平均額を聞いて驚いた。新しい生活をスタートさせるのに、かなりお金がかかる。
- ・生活環境によって、必要なものと必要でないものがあることがわかった。人によって必要なものは違う。だから、優先順位をつけてお金は賢く使う。
- ・お金は自分だけでなく、家族や周りの人のためにも使った方がよい。
- ・お金について考えた。使う・稼ぐ・蓄える。

【考察】

一年目、外部講師の授業では、**予想以上に生徒の「気づき」を上手く引き出していた**。グループごとにゲーム感覚で楽しみながら「これは？」「どうしたらいいかな？」と自然に会話がはずむ。生活費のやりくりを疑似体験するような場面では、ワークシートを見つめる生徒の真剣な眼差しが印象に残った。ディスカッションの場面では、もう少し活発な展開を期待したが、生徒の普段の様子を考えれば上出来であり、**「コミュニケーション能力」の育成にもつながる内容である**。また、生徒は多様な経歴をもつ講師陣の実体験に基づく話にも興味をもったようだ。生徒にとっては非日常の世界、一般社会への窓が一つ一つ開けられていくような場面があった。これは、**外部の講師陣による授業ならではのメリット**であろう。全体を通じて「こうでなければならない」といった押しつけはなく、生徒は自ら考え、自ら判断するように促される。このようなプログラムを生徒とともに体験できたことは、大きな収穫であった。

二年目の授業実践では、**グループディスカッションの効果**に注目した。「笑顔」「うなずき」「なるほどね」などのキーワードを例示し、生徒には自分の考えを発表するだけでなく、上手に聞くこと、上手に話を引き出すこと、グループの縁を大切にすることを意識させた。また、板書をなくし、パワーポイントや解説のプリントを活用することで説明の効率化を図った。多くの生徒がシミュレーションに一喜一憂し、その**立場になりきって考えた**ようである。「このカードのようにならないように今から頑張る」「この授業をむだにしないように将来に生かしていく」など大変力強い感想が寄せられた。

ウ 授業実践2 ライフプラン 未来の設計図 ～マインドマップでかいてみよう～

【「マインドマップ」について】

「マインドマップ」は、カラフルなペンを活用して発想を広げるお絵描きノート術、思考ツールとして知られ、ビジネスや教育の分野で注目を集めている。イギリス人、トニー・ブザン氏が生みの親であり、世界中で使われている。日本では、ブザン教育協会が「マインドマップ」の利用を正式に認可された唯一の団体として、全国の学校や教育機関へ講師を派遣し、普及活動を行っている。

【「マインドマップ」の導入】

「マインドマップ」を知る ～講習会の実施～

ブザン教育協会に依頼し、平成20年度の2学年生徒全員を対象に「マインドマップ」についての基礎的な講習会を実施していただいた。講習会は通常6時間程度をあてる内容であるが、本校の事情を最大限に考慮していただき、3時間をお願いした。依頼は、実施予定日の3ヶ月以上前にする必要がある。実施は、平成21年3月18日。校内の日程調整に時間がかかったが、何とか学年末考査後の日程に組み入れてもらうことができた。

2学年「マインドマップ」講習会実施要項（抜粋）

- 1 時間 9:00 ～ 12:00
- 2 場所 体育館
- 3 内容 「マインドマップ」について、演習
脳の使い方、事例紹介など
- 4 準備
 - (1) 生徒の使用するもの
カラーペン（8色以上）または色鉛筆、白紙
 - (2) 会場準備
ホワイトボード、ボード用マーカー

<生徒が初めてかいた自己紹介の「マインドマップ」例>

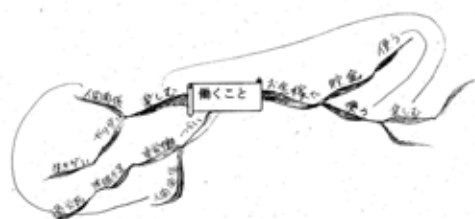


「マインドマップ」に慣れる ～授業等でのプチ演習～

平成20年度末に講習会を受講した学年生徒には、次年度、家庭科の授業の導入部分や、クラス担任の協力を得ながらLHRの時間を一部割いていただき、「マインドマップ」の課題を与えた。色やイメージは大変重要な要素であるが、生徒の実態や利用可能な時間を考慮し、カラーペンなどの用意がなくても大目に見ることにし、発想の広がりを生徒自身が感じることを一番のねらいとした。

<プチ演習 ～テーマ「働くこと」生徒の記述例～>

<マインドマップ演習> 資料を参考にマインドマップで書いてみよう。テーマ「働くこと」



<マインドマップ演習> 資料を参考にマインドマップで書いてみよう。テーマ「働くこと」



「マインドマップ」でかく ～私のライフプラン 未来の設計図～

いつの時点の「未来」か。今回は一つの目安として30年後を示した。中長期的な視点で「未来」を考えるのに適当であり、親の世代と重なる生徒も多いのでイメージしやすいと考えた。難しいと思う生徒には、10年後、20年後、50年後でもよいことを前提に授業での展開を試みた。

<授業の流れ(50分)>

ワーク「私のライフプラン 未来の設計図」の趣旨を理解する。

(生涯を見通し、人生の節目ごとに達成したいことがらを盛り込みながら中長期的な視点で将来を考えることの重要性を理解させる。)

「マインドマップ」のかき方のルールを復習・確認する。

(紙は横置、色やイメージを活用、曲線のかき方・つなげ方、文章ではなく単語を使うなど) 中央のイメージ【セントラルイメージ】をカラーペン・色鉛筆でかく。

(充実した生活をイメージさせる。)

中央のイメージから周囲に向けて枝が生えているように、太い曲線【ブランチ】を数本バランスよく描く。

(曲線の色はそれぞれ別にする。後から追加できるので、最初は4本くらいでもよい。)

で描いた曲線【ブランチ】上にのせるキーワードを考え、かき加える。

(家族、仕事、生きがいなどワーク・ライフ・バランスを意識しながら考えさせる。)

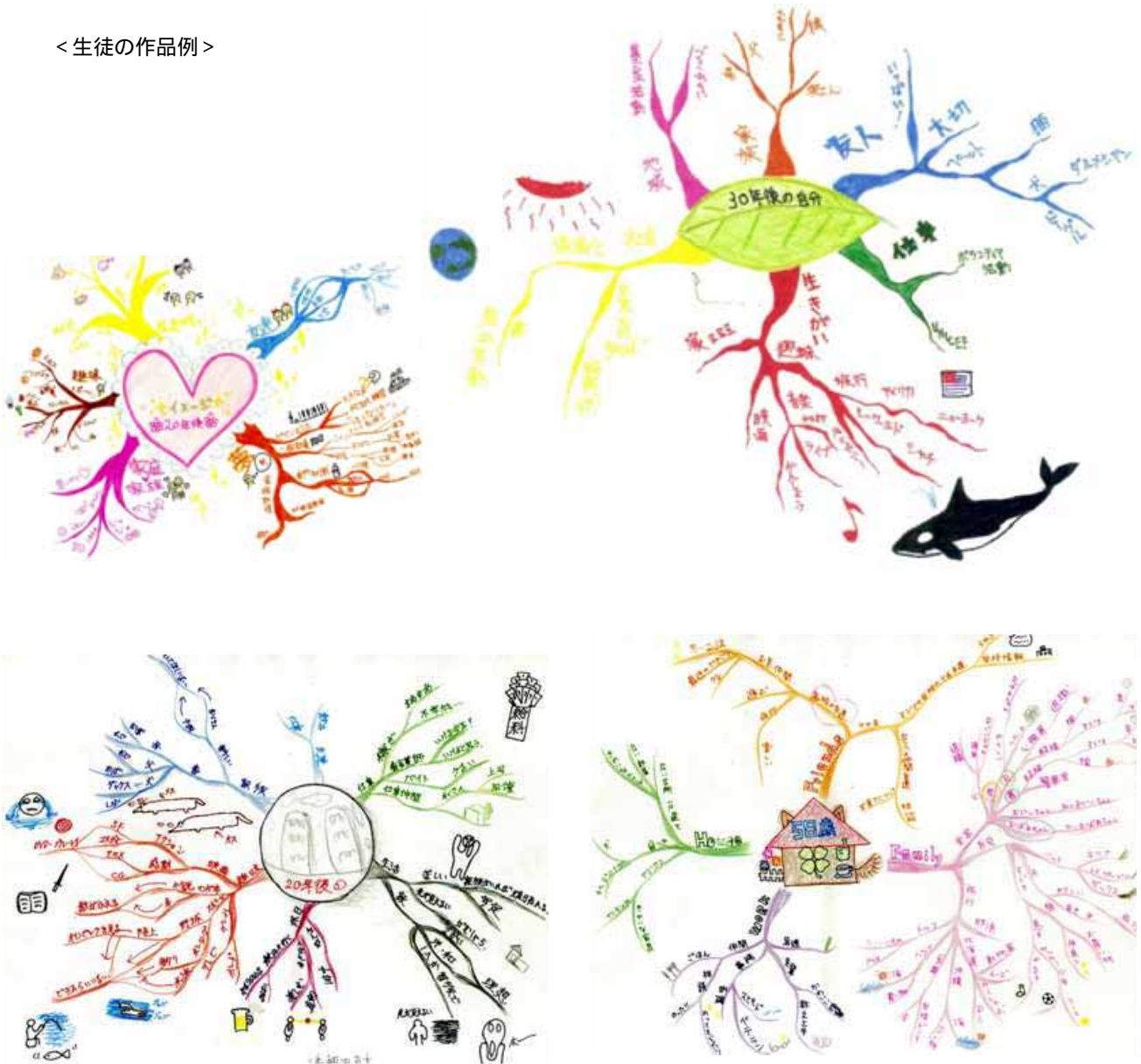
線を放射状にかき足しながら、思いつく事柄(単語)を線の上にどんどんかいていく。

(思いついたところからかくように促す。)

提出する。

(かき終わらない生徒もいるので、提出期限を設ける。)

<生徒の作品例>



【生徒の感想（抜粋）】

- ・考えればいくらでも続けられる。ちょっとした思いや気持ちからでもかける。
- ・始めは何を書いていいのかわからなくて作業が進まなかったけれど、そのうちスラスラかけるようになった。意外に面白かった。
- ・書けばかくほど単語力が出てきて止まらなかった。
- ・時間をかけるとよく出来た。まだ短い時間では出来ないけど楽しかった。
- ・行き詰まってしまったり、かきにくくなってきたりもしたが、完成したものを見るとわかりやすい。
- ・枝をつなげていくと良い面も悪い面も出てきて、今まで気にしなかった問題が大きい問題だと感じた。
- ・最初に枝にのせる言葉がないとかきにくい。
- ・絵でかけなかった。
- ・自分には「マインドマップ」は難しい。広げていくための方法がまだよく理解できない。
- ・文章などで言葉をつなげて書けないのが苦労した。
- ・小学生のときに「マインドマップ」に出会いたかった。そしたらもっと楽しくできたかもしれない。
- ・マインドマップには想像力が大切だが、私は想像力が豊かではないので難しかった。小学生くらいでやった方がもっといっぱいかけたような気がする。
- ・「マインドマップ」をもっと使いたい。自由参加で休みの日等に講習会を開いてほしい。

【考察】

未来のある時点を設定し、充実した生活の様子をイメージさせる。あくまでもポジティブに、こうあってほしいという明るい未来をイメージさせる。全体的に「自己有用感」に関して低い傾向がみられる本校の生徒には、まず第一に明るいビジョンの設定が重要であると考えからだ。生徒に問いかける。何が見えるか。家族、仕事、生きがい、趣味、仲間はどうかだろうか。住居、地域の様子、地域での役割やボランティア、世の中、そして世界はどうなっているだろうか。この類の問いには、高校生にもなるとなかなか素直には答えてくれない。また、文章表現や口頭での発表には苦手意識をもつ生徒も多く、これまでは上手く展開できずにいた。

「マインドマップ」を導入し、一人一人に未来の設計図をかかせた。授業の様子や寄せられた感想からわかることは、「難しい」と感じた生徒もいるが、**概ね肯定的に捉えている。「楽しい」「わかりやすい」などの声もあがった。**「今まで気にしなかった問題が大きい問題だと感じた」とあるように、**生徒の気づきを引き出している。「マインドマップ」は自由に生徒の発想を促しながら、1枚の紙に視覚的に全体像を表現することができる。このような自己表現は生徒に自信をもたせる効果もあった。**

「最初に枝にのせる言葉がないとかきにくい」という生徒もいた。「最初に枝にのせる言葉」を「B O I : Basic Ordering ideas の略」という。この選びが重要であり、その後の広がりや左右する。今回はあえてB O I の候補例を示すことにとどめ、共通のB O I を与えなかった。生徒によって様々な受け止め方があるので、メンタルブロックによってかけなくなる生徒を懸念してのことである。しかし、B O I を決めるまでにかかなり時間のかかった生徒がいたので、いくつかはあらかじめ設定しておく方法がよいかもしれない。また、絵は苦手という生徒への配慮として、イラストブックや携帯電話などでお馴染みのアイコン一覧を参考として見られるように準備しておくことを考えたい。

「私のライフプラン 未来の設計図」から見た状況を自ら創り上げていくには、これからどのような目標を立てて実行していけばよいのか。5年を一区切りに問いかける。イメージの5年前、10年前、15年前はどうかだろうか。これから積み上げていくことは何か。教師の語ることは少ないが、生徒は自ら気づき、考える機会になった。

(5) 考察と今後の課題

本研究では、今後取り組む課題の一つとして「生涯の生活設計」をどのように捉え、どのように展開すれば効果的か、探りながら実践を試みた。まず、家庭総合を学び始めた2学年の生徒を対象に意識調査(冊子「これであなたもひとり立ち」より「ひとり暮らしの自立度チェック」を活用)を行い、これをキャリア教育のめざす4つの能力、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」に照らして生徒の実態を把握した。その結果、生徒が「自立と共生」を意識してキャリアプランニングに至るプロセスが重要であること、金銭教育は不可欠な内容であることを確認し、「発想力」や「意思決定能力」の育成を重視したキャリアプランニングの展開例となった。前後の授業展開計画がまだ十分に練り上がっていない段階で、多くの方の協力を得ながら実践に至った。

新たに取り組んだ金銭基礎教育プログラム「マネーコネクション」と「マインドマップ」でかく未来の設計図は、いずれも生徒の「気づき」を促し「発想力」を高めることに大変有効であることがわかった。これは家庭科教育で培う重要な能力すなわち「意思決定能力」の育成につながるものであり、キャリアプランニングはその可能性を最大限に引き出すことができる、的確で魅力的なテーマとなりうる。しかし、残された課題もある。

まず、実践1「マネーコネクション」初年度の成果は、複数の外部講師によるところが大きかった。教員が一人で行う場合は、教材の準備などに工夫が必要である。今回はパワーポイントを活用し、プログラムの目的、流れ、解説事項を効率よく示しながら、指導・助言に努めた。プログラム1の最初の授業では、展開に合わせて机間巡視しながらワークシート・カードを配布したので、パソコンの操作を怠る場面があり、パワーポイントを十分に活用することができなかった。その後、教材の配布方法を変更することで改善できたが、このプログラムはTTでの授業実践がより効果的であろう。ファシリテータ役の教員がいることで細部に目が届き、生徒の率直なつぶやきに対して異なる観点からアドバイスを与えることができるからである。引いたカードによるグループ分けは、クラスの間関係にある程度知った上で対応する必要がある。また、引いたカード(正社員・派遣社員・フリーター)別にグループを作り討議・発表する場面では、異なるグループの意見を互いに聞く時間を取りにくい。1コマ50分の授業では限界があるので、今後はプログラム2との融合など展開の工夫を検討したい。

次に、実践2「ライフプラン 未来の設計図～マインドマップでかいてみよう～」では、「マインドマップ」にまだ慣れていない生徒への対応が充分ではなかったことがあげられる。授業で活用するには事前学習とある程度の慣れが必要である。ブザン教育協会に依頼した講習会(事前学習)に欠席した生徒へのフォローが充分にできず、授業で戸惑う原因をつくってしまった。授業時間の制約もあるが、私の研修不足が最大の原因である。現段階で「マインドマップ」は日本の学校教育現場に普及し始めたところであり、一つの教科・科目で自由に活用するツールには至っていない。指導者養成が始まり、特に小学校での普及が進んでいるとはいえ、まだ一部である。ドラマ「ドラゴン桜」に登場した「メモリーツリー」を知る生徒は見覚えがあるので飲み込みも早い、ほとんどの生徒は初めて知るツールである。授業での活用には生徒全員が「マインドマップ」をある程度理解しており、使えることが前提となる。数年後には認知度が上昇し、実際に活用できる生徒も増えるであろう。学校全体で「マインドマップ」に取り組む体制があれば、様々な場面を通じてより効果的な活用が期待できる。

残念ながら、二つの実践による生徒の変化を具体的数値で示すデータはないが、生徒の反応や感想などから確かな手応えを感じた。生徒のかいた「マインドマップ」には、多くの場合「共生」の視点が盛り込まれた自己実現像が描かれていた。意思決定のプロセスからいえば、まだ第一段階の半ばであるが、重要な部分である。今後、これをどう生かし、他の内容と有機的に関連づけながら発展させていくかが大きな課題である。さらに生徒の成長を示す評価項目・規準について、研究を進めていきたい。

4 おわりに

家庭科教育では、「自己実現と共生」の視点を重視し、一人一人がよりよい生活を主体的に創造することを目指している。変化の激しい時代と言われて久しく、価値観が多様化し選択肢が増えた時代を生きる上で、自ら適切な情報を活用して答えを選択する「意思決定能力」は人生の重要な鍵を握っている。

ここで、本研究を進める中で出会い、多くの示唆を与えてくれた本の中から一部を紹介したい。佐藤文子編著『家庭科教育における意思決定能力』家政教育社より引用させていただく。(頁61 - 第4章・生活の自立と意思決定能力 - 担当：志村結美)「現在、キャリア教育において、働くことには生計の維持、自己実現の喜びと共に、社会に参画し社会を支えるという意義があることを理解し、自己と他者や社会との適切な関係を構築する力を育て、将来の精神的・経済的自立を促すための意識の涵養と豊かな人間性を育成することが求められている。」キャリア発達を促す指導の視点が明確に述べられている。先にも述べたが、キャリアプランニングは、「意思決定能力」の育成において、その可能性を最大限に引き出すことができる的確で魅力的なテーマとなりうる。生涯を見通し、目標をもって生きる。好きなことより、できることを探して生活のために働く現実を直視することもあるだろう。意に反することや想定外の局面にぶつかった時にどうするか。どんな場面でも発揮される力であってほしい。

研究の半ばで平成21年9月1日の消費者庁設置が発表された。消費者教育の推進体制は強化される見込みである。金銭教育は時流にそった内容となり、これまで以上に注目されている。消費者は情報を適切に分析し行動できる力を身につけなければならない。家庭科教育が担う役割は大きい。

テーマに掲げた家庭科における「キャリアプランニング」の効果的な指導には、学校全体の取り組みをふまえた上で各教科・科目との連携は欠かせない。学習項目は重なるが、視点や取り上げ方において異なる場合が多い。他教科・科目で扱う内容として認識していたものの実際は扱われていない内容もあった。今後も意識して情報交換に努め、授業内容や実施時期の検討に役立てたい。

初めて授業に導入した「マインドマップ」での「気づき」は、本校のキャリア教育研究の中で課題とされた「自己有用感の育成」にも役立つことがわかった。脳科学的にも認められているように、セルフイメージを高めることは潜在能力を生かす上で有効である。未来の設計図では、今回の学習指導要領改訂におけるキーワード「空間軸と時間軸」を盛り込みながら、生徒に多様な観点から未来を考える機会を与えることができた。限られた時間で「マインドマップ」に慣れるための工夫を試み、うれしい発見もあった。その一つに、定期考査において解答用紙の裏側に「循環型社会に関するマインドマップをかく」というおまけの課題を与えたところ、箇条書きや文章ではまとめにくい多種多様な内容が盛り込まれ、具体的なアクションプランに発展した内容が結構あった。カラーペンは使用していないが、予想以上の成果である。点数化することは控えたが、循環型社会に関する生徒の理解度や興味・関心の程度を一目で把握でき、大いに評価できた。本研究の趣旨から外れるが「マインドマップ」の様々な可能性を確信した。これを機に様々な活用を試みたく、さらに研鑽を積んでいきたい。

最後に、ご指導・ご協力いただいた先生方、お世話になった多くの方々に心から感謝申し上げます。

5 参考文献

- | | |
|--------------------|---|
| 「これであなともひとり立ち」 | 金融広報中央委員会[編集・発行] |
| 「16才のための暮らしワークブック」 | 工藤啓[著] 主婦の友社 |
| 「勉強が楽しくなるノート術」 | トニー・ブザン[著] / 神田昌典[訳] ダイヤモンド社 |
| 「マインドマップ超入門」 | トニー・ブザン[著] / 近田美季子[監訳]
(株)ディスカヴァー・トゥエンティワン |
| 「家庭科教育における意思決定能力」 | 佐藤文子[編著] 家政教育社 |